

平成30年度 NIE 実践報告

南九州市立川辺中学校
国語科 東 まどか

1. 学校全体で取り組めたこと ([] が今年度の新たな取り組み)

3月	研修計画立案と教育課程編成	教科等指導の NIE を研修の重点事項に
4月	学活等での若い目の投稿	随時投稿していくことを全体に呼びかけ
5月	2年読むのび教室	新聞作りの視点を学ぶ
6月	修学旅行新聞づくり	学習の成果を新聞にまとめる
7月	1年読むのび教室	新聞の読み方や魅力について学ぶ
8月	道徳教材研究の職員研修	補助教材としての新聞の効果を模索する
9月	3年新聞感想文コンクール応募	思考・表現の向上を目指す
10月	※学級でのスピーチの成果を全体で発表する機会を設けたかったが未実施	
11月	道徳研究授業と職員研修	1年「思いやり」導入や展開で記事を活用
12月	読むのびコンクール応募	保護者の協力を得て1・2年生で実施
1月	学活研究授業	1年進路学習職業調べで「かお」を活用
2月	理科研究授業と職員研修	1年「大地の変化～火を噴く大地～」

各学級で新聞記事を使ったスピーチを毎日行う

道徳の授業の様子

8月の職員研修を経て、11月の研究授業で効果的に新聞を活用できた。「思いやり」でボランティアを連想する生徒は多いが、それがニーズに合わない場合もあったことや、ボランティア登録制度の実態を伝える記事を紹介することで、相手の立場に立った行動の大切さを示唆した。併せてツイッター画面も使ったことについて、新聞の有用性や信頼性と比較してまだ授業での使用に値するツールではないとする意見が授業研究の中では多くあった。

道徳は読み物の文章量が相当あることを考慮し、資料の真価に迫るための記事収集と見出しや写真で視覚に訴える利用の仕方を意識し、今後も授業の各場面で活用していきたい。

北海道新聞
タ刊
2018年
9月12日
水曜日
北海道新聞社

ボランティア動く
胆振東部地震被災3町に200人

Yoshimasa Mine
@Yoshimasa_Mine
フォローする

#熊本 #地震 で #古着 を送ろうとしている方。かさばる物資はかえって迷惑ですので、#ヤフオク や #メルカリ 等でお金に変えてそれを義援金として送って下さい

授業者自身が新聞の魅力を感じられたことも成果

学活の授業の様子

南日本新聞に毎日掲載される「かお」は様々な職種について知ることができるだけでなく、やりがいや苦勞など、その人がどんな思いを持っているか、どんな経緯で現在に至るかなどがわかる。職業を調べる活動を意欲的に行っていくような導入として、全員が違う「かお」の記事を読み、わかったことから職業マップを作るという活動を行った。南日本新聞の連載は「グッジョブ」「うちのカイシャ」など職業に関する読み物記事が充実しているので、調べる過程で活用する、インタビューから記事を作るなど、今後も様々な授業の工夫をしたい。

～生徒の感想より～

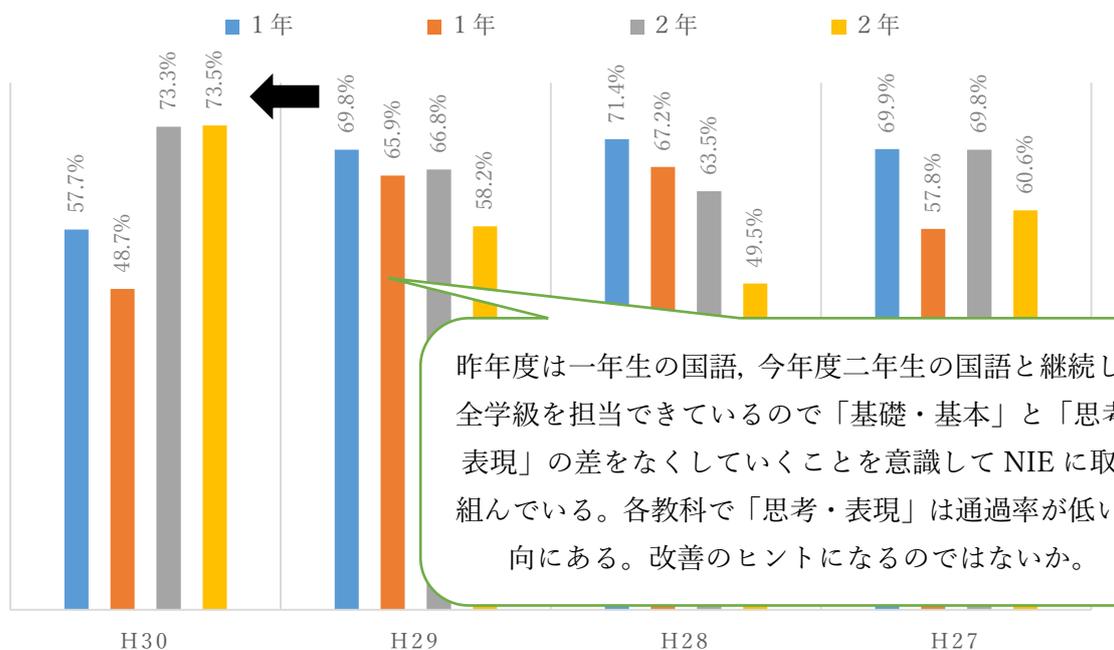
「新聞を読むと、知らない職業がたくさんあったから他にも知りたくなった。」 「記事を読んだら、努力が大切なんだと思った。自分の夢とは違う仕事だったけど、自分もがんばろうと思った。」 「何する仕事か知るだけでなく、扱う商品や関わる人などでの仕事のつながりがわかった。」 「みんなで記事を読んだことで、一人一人の考えが少しずつ変わっていくんじゃないかなと思った。」 「スポーツに関わる仕事への興味がわいてきた。」 「どの仕事についても苦勞はあるだろうが、記事の人みたいに楽しく働けるといいなと思った。」



昨年度から、NIEの視点を取り入れた研究授業を職員研修で実施している。校内で研究授業の機会があっても、教科や学年が違っていると限られた職員での参観となりがちなので、NIEという共通のテーマを持てたことは職員研修の充実につながった。生徒はスピーチや課題等で新聞に親しんでいるため、授業で記事を読む活動には積極的に取り組める。国語以外でも各教科の課題等では新聞を活用しているのだが、教科の授業での活用場面はまだ少ない。NRTや学習定着度調査の分析の視点としてNIEの取り組みを振り返り、新聞活用を充

実させることと生徒の学力の相関関係について、もっと研究していく必要があると感じている。

学習定着度調査の推移（国語）



昨年度は一年生の国語、今年度二年生の国語と継続して全学級を担当できているので「基礎・基本」と「思考・表現」の差をなくしていくことを意識してNIEに取り組んでいる。各教科で「思考・表現」は通過率が低い傾向にある。改善のヒントになるのではないかな。

「女性だから。」



川辺中学校
三年 井之脇 さくら

「女性だから。」
そんな理由で女性性は選択肢が少なくなるのは当然のことであるのだろうか。
私は、この記事を読んで不快感を抱いた。記事の中には、東京医科大学の入試で女子受験者の点数を減点したということが書かれていた。私が一番驚いたことは、「女性性は結婚や出産を機に職場を離れるケースが多いため、女子合格者を全体の三割に抑えている」ということだ。東京医科大学を受けた女性の方々はどんな気持ちだろうか。もちろん怒りでいっぱいだと思う。ただ、女性という性別に生まれただけで不合格のリスクが高くなるのは本当にありえないと思う。そして、未だに男女差別が繰り返されていたという事実にはとても残念に思う。
他にも、結婚や出産を機に職場を離れることが多いのはなぜだろうと思った。出産は、職場を離れないと体の安全が分からなくなるので仕方がないと思う。しかし、結婚という理由がよく分からない。考えてみると結婚後の自宅の家事や育児をするという意味なのかなと思った。私は、家事や育児は女性が全てするべきことなのだろうか。と思った。するべきと思う人もいるかもしれないがその考えは、間違っていると思う。昔からのあたりまえは今になっても受け継がれているのは、女性は家の仕事をするという偏見がまだ少し残っているからだと思う。今は、昔より減って男の人が家事をしたり

育児をしたり、また、お互い家の仕事を分担しあって女性が社会の中で働けることが多くなってきている。それでもまだ、「女性だから。」という理由をつけて女性の夢を奪おうとする事ができるだろうか。東京医科大学は、学校の名誉をも傷つけ、在学中の生徒のイメージをも汚してしまっただんなどと思う。女性が社会で働けることは悪いことではないと思う。少しでも女性差別がなくなっていってほしいと感じる。

また、私が不快感を抱いた理由はもう一つある。それは「受験をしに来ている」ということだ。受験は自分の実力を発揮するためにここに来ているべきであり女性だから減点ということはありえないことだと思う。受験生はモノではなく人間であることを分かっているのだろうか。本人が今まで一生懸命頑張ってきた努力を台無しにされた気持ちは怒りでは済まないだろう。東京医科大学は不正入試で、将来の医者や看護師を育てていけるのだろうか。日本の医療は信頼性を失ってしまうのではないだろうか。合格を決めるのは性別ではない。実力を発揮して、合格して夢に向かって勉強することが一番良いと思うが不正で合格した人は、不合格の人の気持ちを背負いながら夢に向かわないといけない。もう二度とおきてほしくないと思う。

日々のスピーチで新聞記事に思いを持ち発信することを積み重ねた成果

2. 国語科の継続した取り組み

三年間継続している「南風録」の書き写しと感想の週末課題が、「思考・表現」の良いトレーニングになっている。主体的に取り組めている生徒の感想はどんどん充実していく。一年生から三年生まで同じ記事を読んで考えるので難しいと感じる生徒もいるはずだが、音読したり、設問の解答・解説を行ったりと各学年の担当者が授業でも時間を作ることを心がけている。単なる〇×ではなく、生徒一人一人の考えに応じたコメントができるので教師にとっても楽しみがある。設問に対する間違いの傾向や、感想に書かれていたことについては国語科で常に意見を交換し合っている。指導法改善のきっかけとなる取り組みでもある。

読まうけよう
働く環境は誰がつかめるのか

南風録

「女性の話を聴かない上司は仕事をだめにする」「一瞬で心をつかむ女性部下マネジメント」。昨年出版された本のタイトルだ。読者の多くは、職場に女性が増えていることに戸惑う男性上司に違いない▼8月の労働力調査で、15〜64歳の女性の就業率が初の7割に上った。働く人の4割が女性だ。性別にかかわらずやる気を引き出し、実力を発揮してもらわないと仕事は回っていかない時代である▼こちらは力をうまく引き出せただろうか。鹿児島県政初の女性副知事、小林洋子さんである。2年前、「女性副知事登用」という選挙公約を掲げた三反園訓知事が厚生労働省から招いたが、任期半ばで退任することになった▼厚労省では男女共同参画や子育て支援などを担当した人だ。過去にも2年で退任した副知事はいる。だが、知事が県議会の異論を押し切り就任を実現させた経緯があるだけに、首をかしげたくもなる▼明るい人柄と明晰な語り口で庁外でも慕われていた。経験を生かすには期間が短かったのではないか。県庁に実力を発揮できる土壌はあったのか。知事との相性はどうだったのか。次々と疑問が浮かぶ▼後任も女性で、厚労省出身の中村かおりさんだ。「初の」という冠は取れた。肩の力を抜いて目いっぱい働いてもらえよう、周囲のサポートは欠かせない。県外からの視点も生かして県政を盛り上げてほしい。

≪ 2018・10・8 ≫

言葉を知らう ① 厚労省って何のこと？ ② 男女共同参画ってどんなこと？

1面の見出し

- ・厚労省…国家行政組織法が規定する「国の行政機関」である省の1つ
- ・男女共同参画…「男女共同参画社会基本法」を基本法とする、社会政策の1つ。男女の意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会。

今日のできごと

女性が働く時代にはっても環境はまだまだ、とどろいていないのかもしれない。自分が働いていくときは、今は違う問題もあると思うので自分が切り拓いて環境をととのえなければいけないと思う。そのために、今様々なことを学ばなければと改めて感じた。「中村かおりさん」には人々のため未来のために頑張ってもらいたい。今後の県政にも目を向

記事の内容に合わせて設問を工夫している。指示内容を抜き出させたり、説明を求めたり、「記事を読んで終わり」ではなく「記事について考えを持つ」ための手立てをとっている。

二年国語の授業での新聞利用は「パネルディスカッションで自分の意見の根拠となる新聞記事を探す」「小説から読みとった人物像を『かお』を参考に人物紹介の記事にする」など。

3. 取り組みを振り返って

NIE実践指定校として3年目の今年度は、自身の取り組みの一方で他の教師と共にNIEの授業を作っていくことに力を注いだ。生徒が新聞記事を用いてスピーチをすることが日常になったように、教師が授業で新聞を活用することを目指しているが、まだ時間と手立てが足りない。これまで参加した実践報告会等で見聞きしたことが良い材料となり、今の取り組みがあるので、更に発展させるためにはまず自分自身がもっと学び実践し、発信していくべきだろう。継続している取り組みの効果を検討し、可視化することも今後の課題である。